

交通事故防止対策

一人ひとりが自覚を持って 交通事故ゼロのまちに



安全な交通社会を目指し(鏡石一小交通教室)

「まだいける 大丈夫は もう危険」をスローガンに、4月6日(火)から4月15日(木)までの10日間、春の全国交通安全運動が展開されました。期間中、町内の小学校やショッピングセンター等で、さまざまな事故防止活動が行われました。これから行楽シーズンを迎え、何かと外出する機会が多くなる季節です。今月号では、決して人ごとではない交通事故の実態と事故防止のポイントについて考えてみましょう。

<福島県> 福島県内交通事故発生状況

区分	平成15年			平成14年		
	発生件数	死者数	傷者数	発生件数	死者数	傷者数
福島県	14,971	169	19,274	15,435	200	19,096

<須賀川・岩瀬管内> 須賀川警察署管内交通事故発生状況

区分	平成15年			平成14年		
	発生件数	死者数	傷者数	発生件数	死者数	傷者数
鏡石町	91	3	112	93	3	124
須賀川市	509	7	644	499	4	646
長沼町	28	2	35	30	0	43
岩瀬村	25	1	31	17	0	25
天栄村	29	1	39	31	0	45
累計	682	14	861	670	7	883

須賀川警察署資料より

須賀川警察署管内の 交通事故死者数は昨年の2倍

平成15年中の須賀川警察署管内における交通事故の状況は右表のとおりです。これを見てみると、傷者数は減ったものの、発生件数と死者数は増加しています。特に、死者数では、前年の7人から2倍の14人に増加しており、交通事故防止運動の困難さを物語っています。

また、県全体については、死者数は前年比31人減の169人、発生件数・傷者数ともに前年対比では減少しています。

須賀川管内でも、依然として高い水準で推移しており、統計的に見てみると、約52時間に一人の割合で亡くなっている計算になります。

町の交通事故の状況については、死者数が3人、発生件数が91人、傷者数が112人となっています。発生件数・傷者数ともに前年よりも減少しましたが、非常に残念なことに町内で発生した死亡事故により3名の尊い命が失われています。

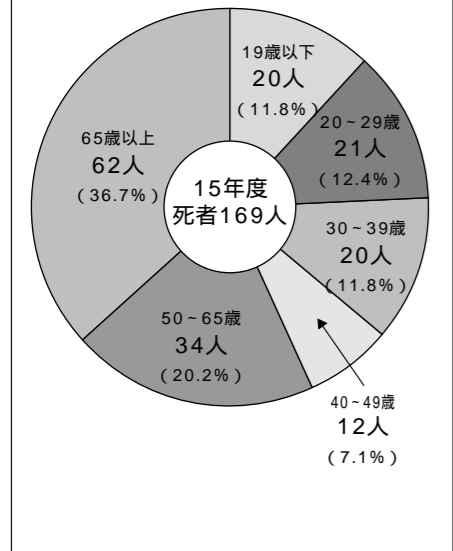
目立つ高齢者の事故と 悪質運転による事故

左のグラフは、県内の事故死者数を年齢別に分類したものを表していますが、これを見ると65歳以上の高齢者が62人で全体の36.7%を占めています。状態別では、歩行中が34人と最も多く、全体の54.8%を占めています。続いて自動車や自転車の運転中の事故になっています。高齢者の方は、体力の衰えから歩行速度が遅くなり、身体への反応が遅れがちで、危険を避けるためのとっさの行動をすることが困難です。高齢者の皆さん、道路を横断する時は、十分気をつけて余裕を持って横断歩道を渡りましょう。また、外出する際は、夜間、外射光材を活用するなどドライバークラッシュから認識されやすい服装をしましょう。

ドライバーの皆さんも自転車を運転している高齢者を見かけたら、減速するなどして注意しましょう。

また、交通死亡事故の約6割が飲酒運転、最高速度違反、追い越しなどの悪質違反により発生しています。これらの

年齢別交通事故発生状況



交通事故防止を呼びかける母の皆さん

安全協会ではカーブミラーなどの交通安全施設等の管理

交通事故を無くすため 各団体が活躍

町では、交通事故を防ぐために、町交通安全協議会をはじめ、町交通安全協会、町交通安全母の会などの皆さんが、それぞれの立場において積極的に交通安全活動を推進し、交通事故を無くすためにあらゆる活動を行っています。

鏡石交番からのお知らせ

4月の人事異動により、鏡石交番に新しいお巡りさんが赴任しました。大野市郎巡査部長と鈴木三雄巡査です。ここでは、お二人に町の印象などについて話してもらいました。



鈴木三雄 巡査

鏡石町の方は、元気に「おはよう」とあいさつしてくれるので温かい町だと感じました。最初の赴任地ですので、不安と期待が入り混じった気持ちです。元気に頑張り町民の皆さんのため努力していきますのでよろしく願います。



大野市郎 巡査部長

以前は、原町警察署に勤務していました。鏡石町は、交通の便がよくこれからますます発展していくと感じています。今後は、町で事件・事故がなくなるように頑張りますので町民の皆さんの温かいご協力をお願いいたします。

をしてしています。母の会では「交通安全は家庭から」をスローガンに掲げ、家庭内からの交通安全教育を呼びかけています。その他、春・夏・秋・年末年始の交通安全運動の際には、広報車等による交通安全啓発や保育所、幼稚園、小学校でミニテント村の実施、早朝、街頭でのシートベルト着用啓発などの活動を実施しています。

町では、このように各種活動を実施しておりますが、最後は、やはり個人の人々が交通ルールを守ろうとする意識を持つことが重要です。私たちみんなが交通ルールを守り悲惨な交通事故の無い町をつくりましょう。